

令和6年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第6学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙に偏りがある。また、漢字を覚えられても文章中で使えない児童が多い。 ○文章の概要を正しく把握し、文章を読み深める力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熟語の意味を調べたり、漢字のもつ意味から想像したりする。 ○主語・述語・目的語や、目的や意図、因果関係を明確にすることを意識して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した漢字を使った熟語を探したり、その熟語を使って文章を書いたりすることで、漢字の習熟を図る。 ○一問一答形式の簡単な発問を繰り返したり、児童から児童へと発言が繋がる発表の形式を多く取り入れたりする。また、出来事や言動の因果関係を詳しく読んだり、事実と感想、意見を表にまとめたり、友達と交流したりしながら、概要を正しく把握できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○知識の定着がある児童と、定着できていない児童の二極化がある。 ○社会的事象をもとに考えたことや思ったことを表現することに課題がある。また、事象を比較したり、関連付けたりすることで考えを深めることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートに調べたことを整理したり、友達と学び合ったりする活動を多く取り入れること確かな理解を図る。 ○考えたこと・思ったことを表現する時間を確保する。また、事象を比較したり、関連付けたりする活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題意識をもったうえで、児童が自分に合った学び方を選択判断しながら、学ぶことができるようにする。また、学んだことをアウトプットし、学び合う時間を確保する。 ○社会的な見方・考え方を働かせられるように授業を構成するとともに、発問を工夫することによって、思考を促せるように指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題から課題を見出したり、自ら発展的に考え、追究したりすることが難しい。 ○算数の図、式、言葉を使い、筋道立てて説明することが苦手である。また、他者の考えのよさを見付け、自分の考えに取り入れるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入場面や終末の場面で、どのように学びに向かうとよいのかの視点を与え、継続して指導する。 ○友達と考えを交流する際は、「なぜ、そのように問題を捉えたのか」「なぜ、そのように考えたのか」を児童同士で問うようにする。その後、児童の見方・考え方のよさを見付け、授業内で取り上げたり、振り返りに書いたりして説明する力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入では、既習と未習のちがいを意識できるよう課題提示や発問を工夫する。授業の終末では、問題の数値や条件を変え、発展的に考える視点を与える。 ○習熟度の低いコースでは、手順を一緒に確認するなどして、説明をする前に自信がもてるようにする。習熟度の高いコースでは、図、式、言葉を関連させながら説明できるようにする。ペアや少人数のグループになり、考えを説明し合う。それからもう一度自分の考えを見直すことで、判断力・表現力を伸ばす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分もっている考えを検討し、より科学的なものに変容させる力が弱い。 ○知識は豊富で理解力も高いが、学習に対する意欲が低かったり、実生活とのつながりを意識して考えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの考えと他者の考えを比べることで、より妥当な考えをつくり出すことができる。 ○児童が興味・関心をもって学習に取り組み、理科の学習が日常生活とどのように関わっているのか考えることで、理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級での結論を導く前に、結果を考察したことを基に自身で「個の結論」導出する。友達と結論について話し合う場を設けることでより妥当な考えをつくり出すことができるようにする。 ○事象提示を工夫することで児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができるようにする。また、生活とのつながりを意識できるように単元の構成を工夫する。

			○実際に実験する、観察する、体験することを大事にすることで児童の経験を増やす。
体 育	○技能の定着に個人差がある。日常的に運動に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きく、その運動の特性に合った動きの習得に時間を要する。 ○児童同士の関わり合いが十分でない。自分自身ができているか、できていないかで、その運動の善し悪しを決めてしまい、単元によって取り組みの意欲に差がある。	○運動のこつやポイントを示し、動きを意識しながら運動に取り組めるようにする。 ○運動は「すること」だけでなく、「みること」「知ること」「支えること」など、自分の適性に応じ、多様に関わろうとする時間や授業内容を意図的に設ける。	○自分の課題を見付け、自分に合った練習方法や場を選択できるようにし、課題解決に向けて取り組みやすいようにする。 ○児童同士で試技を見せ合ったり、アドバイスをし合ったりする時間を設け、児童同士の交流する機会をつくる。運動は個人だけでなく仲間と一緒に取り組む必要感を高める。
音 楽	○意欲的に取り組む児童が多いが、集中力が続かない児童もいる。 ○演奏をすることが好きな児童が多く、合唱で声を合わせて歌うことや、合奏で楽器の音量のバランスについて話し合い、よりよい演奏を目指す姿が見られた。	○学習のきまりをしっかりと身に付けさせ、定着させる。 ○聴き合いや、教え合いの機会を設け、技能の定着や、表現力の向上を図る。	○具体的なめあてを設定し、児童が授業に取り組むやすい環境を作る。 ○友達の演奏を聴いて感じ取ったことをうまく言語化できるように働きかけ、課題をお互いに見つけ合い、協力して課題解決できるようにする。
図 工	○意欲的に取り組む児童が多いが、粘り強く取り組むことが苦手な児童もいる。 ○後片付けについて、自分周辺の片付けや掃除だけで満足し、図工室全体をきれいにする気持ちが少ない児童もいる。	○友達の作品などいろいろな作品のよさを共有していくことを通して、意欲を持って、粘り強く取り組んでいこうとする意欲を高める。 ○みんなで使ったものものを自分事として、後片付け・掃除に取り組むように声かけを粘り強くしていく。	○友達の作品のよさを共有することで、自分の取り組み方で足りない点や工夫できる点に気づく機会を設けるようにする。 ○後片付け・掃除も大切な活動の一部であることを認識させると同時に、学校は、みんなで使っているところという認識をより一層もたせる。
家 庭	○調理の実習には、興味をもって取り組める児童が多く、学習したことを活かして家庭で実践できる児童が多かった。 ○家族の一員として、授業で学んだことを家庭で実践しようとする態度が育ってきている。しかし、家庭での実践や生活経験が乏しいため何から始めたらいいか分らない児童も見られる。 ○手縫いの基本やミシンの正しい使い方が身につけていない児童がいる。基礎基本を身に付けることが課題である。	○お互いの実践を知ることで、参考にしたいやり方や新しいやり方を見付け、より充実した実践を行えるようにする。 ○家族の一員としてできることを増やしたり、レベルを上げたりすることをめざせるようにする。 ○既習内容を改めて確認し、基本的な作業が一人でもできるようにする。	○実践活動を発表し合う時間を確保し、より多くの友達の実践を知ったり、互いに質問し合ったりすることができるようにする。 ○「家庭でもやってみよう」と思えるように、具体的なアイデアを紹介したり、児童同士で出し合ったりする。 ○玉結び・玉どめなど、確実に身につけさせたい技能については、特にやり方を明確にし、指導内容の定着を図る。
外 国 語	○英語でやり取りする目的を意識しながら、表現を工夫することが十分にできていない。 ○言語活動の中で、やり取りや発表の表現について互いに認め合ったり、助け合ったりすることに課題がある。	○児童が相手や身の回りのことに興味を持ち、英語で伝えたいという思いから、英語の意味や表現を意識して友達と伝え合うことができる。 ○自分の表現について振り返るとともに、友達の表現の良い点を見つけ、自身のコミュニケーションにつなげることができる。 ○辞書や教科書を基に、どのように表せば伝えられるかを自身で	○英語でやり取りする目的、場面、状況を明確にし、児童の表現の仕方からできたこと、もう少しなところについて丁寧に伝え、次回の学習につなげられるようにする。 ○友達のやり取りの活動を2回に分け、中間評価を行うとともに、表現の工夫について友達と互いに伝え合う時間を作る。 ○ヒントとなる辞書や教科書のページを提示したり、段階的に取り組めるようにワ

	○自分や身の回りのことについて、自力で伝えたり書いたりする技能が十分でない。	考え、表現しようとする事ができる。	ワークシートの難易度を工夫したりする。
--	--	-------------------	---------------------